



会員寄稿

共に闘う大学受験

進路課長 村井 智士

藤樹祭も終わり、3年生はいよいよ本格的な受験・就職のシーズンへと突入しました。この時期になると、職員室では放課後遅くまで推薦入試に向けた指導が行われます。担任の先生方はもちろん、多くの先生方が受験生に対し、マンツーマンで指導に当たってくれています。私は長年進路指導に携わっていますが、これほど情熱をもって進路指導に関わってくれる学校は初めてです。そのような職場で働けることを誇りに思うと同時に、一人でも多くの生徒が夢への第一歩を踏み出せることを強く願っています。

今回の月報では、御存じのこととは思いますが、改めて入試制度について説明させていただきます。それは受験においては生徒の努力や教師の指導以外に、保護者の皆様のサポートが大切だからです。昨今複雑化する入試制度を理解し、「共に闘う」姿勢をもっていただければ幸いです。

○ 大学入学共通テストについて

「大学入学共通テスト」は大学入試センター試験の後継にあたる試験で、令和7年1月18日(土)・19日(日)の2日間実施されます。昨年度は全国で約49万人が志願し、国公立大学の一般受験者は、原則共通テストの受験が求められます。また、全国約530の私立大学でも「共通テスト利用方式」を設定しており、一般選抜受験生にとって大変重要な試験となります。出題はマーク式ですが、知識・理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力を発揮して解くことが求められる問題が出題されます。また、文章量も多く、短時間で正確に情報を処理する能力も求められます。出題科目は2025年度から国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語(英語)、情報の7教科21科目で構成されます。『数学②』は『数学Ⅱ、数学B、数学C』の1科目となり試験時間が70分に延長、国語も試験時間を90分に延長して問題構成・配点に変更されます。2日間とも9時30分から18時頃まで受験するという、学力のみならず、気力・体力を必要とする試験となっています。

○ 学校推薦型選抜について

「学校推薦型選抜」は大きく分けて「公募制」と「指定校制(私立大学のみ)」があります。9割以上の国公立大学が実施している公募制は、「学習成績の状況4.0以上」などの出願条件をクリアし、学校長の推薦が必要となります。一方、指定校制は大学が指定した高校の生徒(成績条件等あり)を対象とする選抜です。また、国公立大学の場合は、共通テストを課す場合と課さない場合の2つに大別され、その入試日程も大きく異なります。試験内容は、書類審査、小論文や面接(ディスカッション含む)を課す大学が多いです。

○ 総合型選抜について

「総合型選抜」は特に「学習成績の状況」の成績基準等はほとんどありませんが、エントリーシートなど受験生からの提出書類の他、面接や小論文、プレゼンテーション等を課し、受験生の能力・適性や学習に対する意欲を総合的に評価する入試方式です。出願時に受験生自身が作成して提出する書類(志望理由書等)も多く、早い時期からの事前準備が必要です。また、基礎学力を測るために、共通テストを課す大学は増加傾向にあります。

○ 2次試験(個別学力検査)について

大学入試は大きく分けて先ほど述べた「学校推薦型選抜」、「総合型選抜」以外に、「一般選抜」があり、国立大学では定員の約8割を一般選抜で募集しています。国公立大学の一般選抜は、1次試験的役割を果たす「共通テスト」の得点と、大学別に実施される「2次試験」の得点の合計で合否を判断するのが一般的です。2次試験は2月下旬から実施され、文系なら国語、英語、地理歴史、公民など、理系ならば数学、英語、理科などの大学個別の記述試験が課されます。「前期日程」、「後期日程」の2つの日程に募集人員を振り分けて選抜する「分離・分割方式」で実施され、第1志望校は前期日程で受験するのが基本です。

以上、簡単ではありますが、大学入試の仕組みについて説明させていただきました。保護者の皆様と共に、生徒一人一人の進路実現に向けてまい進していく所存ですので、今後ともよろしくお願いいたします。